

# 大好き！絵本

初瀬 恵美



かいじゅうたちのいるところ



『かいじゅうたちの  
いるところ』  
作：モーリス・センダック  
訳：じんぐう てるお  
出版社：富山房

11月8日は、442年ぶりの天体ショー「皆既月食」と「天王星食」が同時に見られると話題になりましたね。

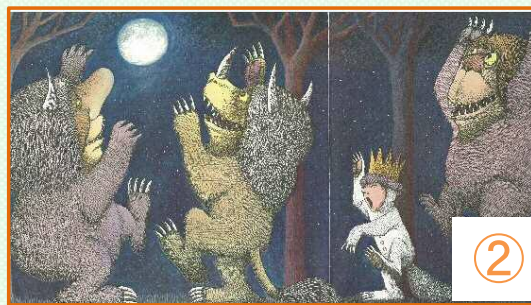
私は残念ながら、最初からは見ることはできませんでしたが、部分食から皆既食になるまで、皆既食からまた部分食が始まり、終わるまでを、本物の月と専門家の方のお話を映像で見比べながら見ていました。ほんとうに凄い天体ショーで宇宙の神秘を感じました。

一方月を見ていたら、ふと『かいじゅうたちのいるところ』を思い出しました。そして、一つの推測が浮かびました。どんな推測かはさておき、まずは、あらずじからご紹介しましょう。

あるばん、主人公の男の子のマックスは、オオカミのぬいぐるみを着ていたずらをはじめました。おお暴れしてふざけすぎたので、お母さんに怒られて夕ご飯抜きで、寝室に閉じ込められてしまいました。すると不思議な事に、寝室に木がはえ出して、森や野原になりました。さらに波が打ち寄せて船を運んできたので、マックスは船に乗り旅にでます。1年と1日航海するとかいじゅうたちのいるところ。マックスは、かいじゅうたちの王様になり楽しくすごします。しかし、夕方になると寂しくなり、王様をやめて、うちへ帰ることにしました。また1年と1日航海するといつの間にやら自分の寝室に。ちゃんと夕ご飯が置いてあって、まだ、ほかほかとあたたかかった。というお話です。

この絵本の素敵なお話の一つは、現実世界とファンタジーの世界が実にゆるやかで、「本当にあったこと？それとも夢？」と想像させてくれるところだと思います。怖すぎないかいじゅうも、愛らしくて好きです。また「やさしいだれかさんのところへ かえりたくなった。そのとき、とおい とおい せかいの むこうから おいしい においがながれてきた」という文が子ども心だけでなく、親心もくすぐる素敵なお話で、この表現が大好きです。

そして静かに目を引くのが「月」。絵本の中では月の形が変わります。絵本なので何があってもおかしくないのですが、妙に気になっていました。左下の絵(①)は寝室に放り込まれた直後の挿絵です。三日月のような月ですね。そして、中央の挿絵(②)はマックスがかいじゅうたちの王様になり「かいじゅうおどりを はじめよう！」と命令した後の月です。明るくきれいな満月を見ながら、マックスもかいじゅうたちも楽しく踊るシーンです。最後に右下(③)の挿絵ですが、寝起きのようなマックス。かいじゅうたちのいるところは、夢だったのかな？と思わせる挿絵ですが、月は満月のまま。夢だけど、夢じゃなかった・・・？的な不思議な気持ちにさせる挿絵だとずーっと感じてきました。だからでしょうか、「皆既月食」の日をみているふいに「あー！もしかしてこの絵本に描かれた日は、皆既月食の日だったのかな？」と思ったのです。すると納得がいくというか・・・。私の中の違和感が消えました。実際のところは分かりませんがこの絵本をご覧になられたときは、そんな「月」の絵にもご注目ください。



11月

お誕生日おめでとう

